

# ビゼンクラゲ

## ～有明海の古くて新しい特産物～

有明海・八代海漁場環境研究センター 環境保全グループ 豊川 雅哉

### ビゼンクラゲとは？

ビゼンクラゲは鉢虫綱根口クラゲ目に属し、成熟時には直径 60 cm 以上、重さ 20 kg 以上に達する大型のクラゲです（写真 1）。中国や韓国、日本では本州や九州の沿岸に分布しており、塩などで加工して食用とされてきました。

ビゼンクラゲは、備前国（岡山県）の児島郡で明治 23 年（1890 年）に記録されました。備前国での食用クラゲ加工の歴史は大変古く、天平 18 年（746 年）の水母（クラゲ）の荷札が平城京跡から出土しています。

その後、明治 26 年（1893 年）に、有明海から赤い食用クラゲが動物学雑誌に報告されました。児島郡から記録されたビゼンクラゲは青かったのですが、標本を検討した結果、ビゼンクラゲと色が異なるものの同種であるとされました。

明治 30 年（1897 年）には、有明海から別の白い食用クラゲが記録され、肥前国にちなんでヒゼンクラゲの名を頂戴することになりました。肥前国でのクラゲの利用の歴史も古く、江戸時代中期に編纂された百科事典「和漢三才図会」に備前国のクラゲと並んで肥前水母、またの名を唐水母と記載されています。



写真 1 ビゼンクラゲ（福田金男氏撮影）

### 新たな輸出産品

有明海では、ここ数年ビゼンクラゲの豊漁が続いています。財務省貿易統計では、平成 24 年度に 3319 トン、8.3 億円の輸出だったものが、平成 27 年度には 2907 トンと漸減したものの、金額では 21.2 億円に拡大し、地域経済に一定の影響を与えていると推測されます。輸出先は、ほとんどが中国向けです。この 5 年で輸出量が横ばいなのに金額では倍以上に拡大しており、中国市場で有明産クラゲの人気が高まっていることをうかがわせます。

### ビゼンクラゲの豊漁は続くのか？

ビゼンクラゲの豊漁は 1970 年代後半にもありましたが、数年でほとんど獲れなくなってしまいました。その原因はわかっていません。

福岡県と佐賀県が一昨年禁漁期間を設けるなど規制を導入した背景には、資源が枯渇しないよう持続的に利用したいという願いがあります。しかし、親魚を保護することで産卵数を確保し、稚魚の加入を期待できる魚類と比較して、生活史が全く異なるクラゲの資源保護は複雑です。

クラゲの受精卵は多くの場合、ふ化後に海中の物に附着して、ポリプという小さなイソギンチャクのような形になります。クラゲはこのポリプから生まれます（図 1）。ポリプは無性生殖で自らのクローンを作るので、個々のポリプが死んでも群れ全体としては何年も生きることができます。クラゲを減らさないためには、ポリプの生息数を減らさないようにする必要があります。そのためには、ポリプの生息場所を見つけて、保護のための調査や施策の立案ができれば良いのですが、これが難しい。六角川など、有明海の奥部に注ぐ河川の河口付近でクラゲが発生するらしいことまではわかっているのですが、ポリプの生息場所は見つかっていません。

1970 年代にクラゲ資源が枯渇した中国では、天然のポリプを保護するよりも、ポリプを人工的に養殖して稚クラゲを育成し、放流や養殖をする道を選びました。有明海のクラゲ資源はどのように管理して行くべきでしょうか。古くて新しい特産物を守るための挑戦は始まったばかりです。

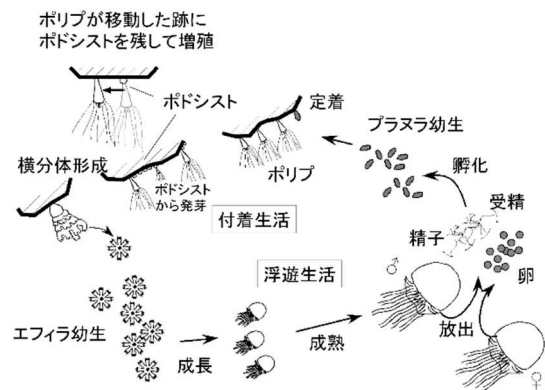


図 1 ビゼンクラゲの生活史